

# 極楽寺だより



2013(平成25)年11月号

発行所：極楽寺 (浄土真宗本願寺派) ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

## 秋の永代経法要のご案内

次の通りお勤めいたしますので、お誘いあわせの上、お参り下さいますようお願いいたします。

十一月十三日(水)

昼一時半 夜七時半

十一月十四日(木)

昼一時半

講師 益田市 西楽寺住職

川本 義昭

昼間お仕事の方は、ぜひ夜席にお参り下さい。

## 永代経法要とは

任職が子どもの頃は、

山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなったことで、道がなくなってしまうからです。先に行く人が踏みしめる歩みによって、道はできるので。私たちのところはまだ、お念仏の教えが伝わってきたのも、先だつてこの道を歩まれたご先祖があるから、志を納めお寺を護つてこられた先輩方がいるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。永代経法要とは、永代にわたって伝えられたこのみ教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうと

## ご予約下さい

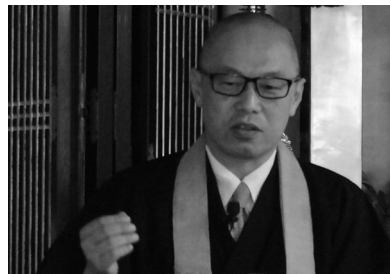
◇12月18日14時 仏婦報恩講

◇12月31日夜23時45分 除夜の鐘撞き

◇1月1日10時 元旦会

◇1月14~16日 御正忌報恩講

# 大きな行事が 終わりました



## 三隅親鸞聖人讃仰会法会

今年度、極楽寺では大きな行事が二つありました。一つは、三隅地区の真宗寺院八ヶ寺で、毎年順番に会場を変えて行われる『三隅親鸞聖人讃仰会法会』の引受け（9/4～5）です。「讃仰」とは「聖人の道を探求し、徳を仰ぎ慕うこと」という意味で、今回でなんと50回目を数えます。相愛大学教授・大阪 如来寺住職の釈 徹宗先生に、深い知識に基づいた、敬いの心に満ちたご法話をいただきました。総代さん、世話人さんを中心にした準備・進行、たくさんの方々のお参り、ホワンシィ・コーラスの歌声。皆さんのおかげで、盛況な法会となりました。



二つ目は、大津東組（旧長門市・三隅町の真宗寺院の集り）の仏教青年の集いです。これも毎年会場を変えて行われており、今回は極楽寺の引受けとなりました。

組内八ヶ寺から、約八〇名の仏青メンバーが集まり、深川 光浄寺 小内良文住職のご法話をいただいた後、大宴会が繰り広げられました。雅楽バンドのライブあり、チンドン屋さんもやってきて、大変な盛り上がり！極楽寺ご近所の皆さま。夜遅くまで、うるさかったことでしょう。本当に、申し訳ありませんでした。



大きな行事が二つも続き大変でしたが、たくさんの方々のおかげで、極楽寺は成り立っていることを再確認させていただきました。本当に、有り難いことです。■

## 大津東組仏教青年の集い



# お取越しの季節です

「お取越し」とは、真宗寺院において最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」

を、ご命日より取越して（早めて）、各家々

で勤めるといふ門徒にとつて大切な伝統行事

です。ところが近頃は、「どうして親戚でもな

い人の法事を、勤めなくてはならないのか！」

と怒られそうな時代になりました。しかし、

親鸞聖人が亡くなられてから約七百五十年。

長い歴史を通して、「伝えなくてはならない願

いがある」「受け止めなくてはならない尊いご恩がある」と私た

ちのご先祖や先輩方が、その心を「お取越し」といふ行事に込め

られて、私たちのところにまで届けて下さっているのです。

あまりここに書くべきことではないのですが、実は今年

の夏休み、私は子どもたちの宿題である作文を七つ手伝うはめ

になりました。中学生は作文の宿題が、三つもあるのです。（中

学生二人×三十小学生一人で、計七つ。）

パソコンの前でテーマを選び、切り口を考えます。「お前、ど

う思う？」「こういう考えもあるんじゃない？」「それは面白いな」「なるほどね」などと相談しながら作り上げていくの

ですが、これが七つも続けると・・・いやはや大変でした（涙）。

しかし、いつも一緒にいながら、今回初めて「平和ってど

う思う？」「原発をどう考える？」「環境問題は？」という話

ができたのです。一緒にいても、普段はこんな話なんかしな

いですよ。でも宿題がきっかけで、とても有意義な時間が

過ごせました。

私

私たちは、何かきっかけがなかったら、大切なことについ

てもなかなか考えることはありません。私たちの先輩方が

「お取越し」といふご縁を用意して下さいということ、

親鸞聖人が見つめられた、「私のいのちの行き先はどこなの

か」「何を依り処に生きているのか」といふいのちの帰る場

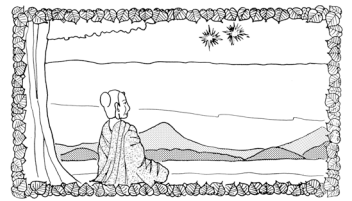
所・いのちの依り処を（帰依処）を見つめるきっかけとして

欲しいという願いが込められているのではないのでしょうか。

その願いが長い歴史となって、今私のところにまで届けられ

てあるのです。深く、受け止めたいことです。■

オシエノカケラ「毎日お参りしましょうキャンペーン」は、  
紙面の関係上、お休みさせていただきます。



## 極楽寺揭示伝道 けいじでんどう



## 11月の言葉

のです。私たちが生きてい  
る現代社会には、様々な欲望が  
渦巻いています。

そんな時代に、自分を見失わ  
ないで生きるということは、大

変難しいことです。自分がお金を使ってい

るうちはよいのですが、気がつけば、お金に  
執着する中で、自分がこき使われているの

ではないかと思うことがありますか？欲望  
に自分がこき使われているのではないかと、

思うことはありませんか？執着し、握りしめ  
ることで、モノは豊かになりましたが、心は

縛りつけられ、貧しくなっているようです。

近頃は、仏教的な作法に「縛られず、自分  
らしく」という人が増えてきたようです。し

かし、肝心の「自分」が欲望に縛られている  
のであれば、その「自分らしさ」って何なの

でしょう。作法には「縛られる」と言います

が、「自分の思いに縛られている」という発想  
にはならないのでしょうか。実は、仏教的な  
作法には、握りしめたコブシを開かせる働き  
が込められているのです。

例えば、「お布施」。相愛大学教授の釈徹宗

さんは、布施行とは、手を離すトレーニング

だと言われています。そして日頃からトレー

ニングをしておかないと、いざというときに

手を離すことができなくなって、金平糖の猿

のように、どうしようもない状態で縛りつけ

られ、苦悩することになるのだと指摘される

のです。

以前、若い僧侶の研修会で、ある先生から

こんなことを教えられました。理想に燃える

若い世代。しかもお坊さんですから、きれい

ごとに流されがちです。そんな私たちに、「君

たちは、お金を汚いもののように思ってい

ないか。お金は、大事だよ。私たちは、お金

こんな話を聞いたことがありますか？一

匹の猿が、金平糖が入っているツボを見つけ

ました。猿はさっそくツボに手を突っ込み、

中の金平糖をとろうとします。ところがツボ

の口が小さかったので、握りしめたコブシが

つかえて、手が抜けなくなってしまいました

た。手を開けば抜けるのに、金平糖に執着す

るあまり開くことができません。あわてふた

めく猿。では、考えてみて下さい。そんな猿

を、どう思いますか？私は、笑うことはでき

ませんでした。お金や、モノや、資格、そし

てつまらないプライドに執着し、握りしめ、

手放せずに苦しんでいる。そんな自分の生き

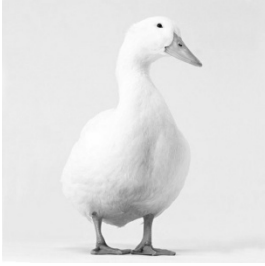
方を指摘されたようで、ドキッとさせられた



によってどれだけの恩恵おんけいを受けているか。それを忘れてはいけない。」と水を差され、そしてこう続けられたのです。

「お金は大事だいじだよ。でもそれは、いのちを大切にするために大事なのであって、近頃はお金を大切にするために、いのちを粗末そまつにしている。」と。何のために大事なのかを考えないと、縛りつけられ、自分を見失ってしまうのだと教えられたのです。

ちょうど同じ頃、ある保険会社のコマーシャルで、「よく考えよう。お金は大事だよ。」と歌われていましたが、それを聞いたびに、いつも先生の言葉が思い出されたことでした。 ■



## 世界中で最も 油断できないのは 「私」という人間だ

極楽寺掲示伝道



### 10月の言葉

クイズをひとつ。「既に造った罪つみ」（已造業いざうじょう）と、「これから造る罪みぞうじょう」（未造業みぞうじょう）どちらが怖いでしょう。答えは、「これから造る罪」だと仏教ではいいます。なぜなら、「次の瞬間しゆんかん、どんな自分が飛び出してくるのかわからない」からです。どんなに悪いことでも、既にすでにしまったことは一つの形、限定げんていをもっていない。しかし、これまでどんなに立派なあり方を誇ほこってもいても、「さるべき業縁ごうえん」もよおさば、いかなるふるまいをもすべし」（『歎異抄たんにし抄』）、縁があればどんなふるまいを、してかすかわからないのが私たちなのだ、と、教えられます。

二〇〇三年、長崎県佐世保市させぼで、十二歳の少年が四歳の少年を殺してしまうという事件

がありました。当時、うちの子どもが三歳と五歳でしたから、怖ろしさに身震みふるいしたことでした。

その際、ある大臣が「加害者かがいしやの親は、市中しちゆう引き回しの上、打ち首にすればいい」という発言をされました。賛同さんどうする意見も多数たすうあったようです。勿論もちろん、同じ歳の子どもを持つ親として、被害者おやじの親御さんがそんな思いを持つことは、わからないではありません。

しかし同世代の子どもを持つ私たちは、被害者おやじの親になる可能性もあれば、加害者おやじの親になる可能性も持っているのです。だから、「うちの子は大丈夫だろうか」という不安を抱きながら、「俺の子育ては、これでいいのか」と、悩んだり、口ごもったりしているのです。テレビの時代劇ではあるまいし、「引き回しの上、打ち首」ではすまない問題だからこそ、立ちすくんでいるのです。根ねはもつと深ふかいところにあるはずなのに。それに向き合うこともなく表面ひょうめんだけで決めつけても「一件落着いっけんらくちやく！」

とはいかないから、世の親は悩んでいるのです。大臣の発言は、安易な爽快感を求めているようで、不快な思いさえしました。

当時、加害者の通っていた中学校には、生徒に対する嫌がらせや暴行が相次いだそうです。どうして、同級生がそんな目に会わなくてはならないのでしょうか。加害者を生み出した学校は、「市中引き回しの上、打ち首」にされても仕方がないとも言っているのでしょうか。ならば、加害者を生み出すような国の政治家も、教育者も、そして同じ国に住む大人である私もあなたも、打ち首にされなくてはならないでしょう。

しかし十年たった今でも、同様の事件が起こる度に、周囲を巻き込んだマスコミの吊るしあげ、断罪、市中を引き回すような報道が、数多くされています。それを求める人が多いということなのでしょう。イジメていいヤツを見つけては、みんなでもってたかってイ



ジメているような気がするという声もあります。子どもたちは大人の姿を見て育つのですから、自分の姿がどんな影響を与えているのかも考えなくてはなりません。

薄っぺらな正義感で自分を振り返ることもなく、被害者の感情に便乗し、新たな被害者を生み出していく。いや、もしかすると、加害者を生み出しているのかもしれない。自分が正義の立場にいると思いつくこと、どれだけ人を傷つけ、深い根を育てていることも気づかない。気づかないから、ブレキも効かない。自分の安易な爽快感に、被害者を利用してあるのであれば、迷いの深さは相当なものです。

では、そう指摘する私は、一体どこに立っているのか。よくよく見つめなくてはならないでしょう。

親鸞聖人が生きておられた時代は、人々は奪い合い、騙し合い、時には殺し合いながら生きていました。しかし親鸞聖人は、「何と残酷な奴らか」と見下すようなことは、決してされませんでした。「人間とは、縁に触れば何と怖ろしいことをしかす存在なのか。そして、この私もその人間の一人なのだ」と、自らの姿をそこに見出し、共に救われる道を求められたのです。

次の瞬間、どんな自分が飛び出してくるかわからない。そして自分が正義の立場にいると思う時、どんなに怖ろしいことをしても気づきもしない。そんな、油断できない存在こそが「私」なのだ。親鸞聖人は、阿弥陀如来の光に照らされる中で、深く、そして重く、自分の姿を見つめられたのです。

そのことに頭が下がるかどうか。それだけでも、世界との向き合い方は大きく変わってきます。 ■



## 9月の言葉

今月の言葉を見て、私が最初に思い出したのは、『西遊記』の孫悟空とお釈迦様のお話です。

乱暴狼藉をはたらく孫悟空に、お釈迦様は言われます。「私の手のひらから飛び出すことができれば、お前の望む通りにしよう。」悟空は「バカにするな！」と筋斗雲に飛び乗り、世界の端を目指します。ここまで来たら大丈夫だろうと思ったその先に、雲の間から立っている五本の柱が見えてきました。「これが世界の行き止まりだな。」来た証拠にと柱に名前を書き、お釈迦様のもとへ帰ってきた悟空。しかしお釈迦様の指を見ると、悟空の名前が書いてありました。結局悟空は、手のひ

らの上で飛び回っていただけだったというお話です。

こう聞くと、「み手の上」とは「手のひらの上で、もてあそばれている」という悪いイメージにつながってしまうの

かもしれない。私たちは、手のひらから飛び出すことが「自由」であり、「自立」であると思っているのではないのでしょうか。

自分の力だけで立つことを、誰に依存することなく生きることを「自立」といい、誰の干渉も受けずに、自分の思いだけで生きること「自由」だと。

しかし、臨床心理学者の河合隼雄さんは、「自立」ということを依存と反対である、と単純に考え、依存をなくしていくことによって自立を達成しようとするのは間違っていたやり方である。」とされています。

「そもそも人間は誰かに依存せずに生きていくことなどできないのだ。自立という



ことは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれだけ依存しているかを自覚し、感謝していることではなからうか。依存を排して自立を急ぐ人は、自立ではなく孤立になってしまう。『こころの処方箋』と。

確かに自分の力で立っていると思っても、支えて下さる大地がなければ、立つことなどできません。

このあたりのことがよくわかっていなかった頃、河合先生はヨーロッパに行っていたとき、ヨーロッパの人たちは自立いたそうです。ヨーロッパの人たちは自立的だから、親子関係は日本よりはるかに薄いだろうと思いきや、電話をしたり、贈物をしたり、食事をしたりと、頻繁に親子が交流していたというのです。つまり、支えて下さる場があるからこそ立てるのだというをよく理解していて、だからこそその場を大切にしていたのです。

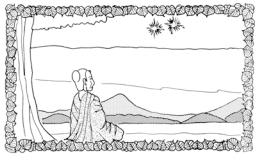
それを忘れ、自分を縛りつけるものよ



「南無阿弥陀仏」と称えるお念仏は、私の声ではありませんが、阿弥陀様からの呼び声だと受け止めなさいと教えられます。お念仏を称えるときに、いつも呼びかけられ

うに扱あつかう時、悟空のように傲慢ごうまんになり、孤立ごっしていくのでしょうか。考えて見れば、近頃使われる「自由」という言葉もその中身は、欲望よくぼうに縛りつけられ、振り回されているにすぎないことがほとんどではないでしょうか。自分の欲望しほに縛られていることに気づくこともなく、逆に、支えて下さる世界を縛りつけるものしか見ることができない有り方は、地に足のつかない孤立こりつの姿でしかありません。私を包んで下さる手のぬくもりを知らない姿は、「自立」でも「自由」でもないのです。

ている私であることに気づかされていく。支えられ、願われている私であることに気づかされていく。「南無阿弥陀仏」と称える時に、阿弥陀様の手の上に包まれていることを知らされる。そのとき、自分の力だけで生きているという傲慢ごうまんさや勘違かんちがいも知らされていくのでしょうか。私を常に願って下さる世界に気づく時、私たちは初めて、地に足がついた生き方に目覚めざめることができるのではないのでしょうか。それは、ぬくもりのある、心豊かな歩みだと、先を歩む方々の後ろ姿が伝えて下さるのです。 ■



極楽寺揭示伝道



## 極楽寺ホームページ

こつこつ更新中

極楽寺.com で、検索して下さい。

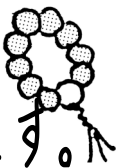


### 極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、うれしいのです。

お寺まで、お持ち下さい。

お念珠修理いたします。



□広島カーブが16年ぶりにAクラスに入り、クライマックスシリーズに出場しました。カーブ応援歴37年の住職の夢がかない、感無量です。ジャイアンツに負けて、日本シリーズには出ることはできませんでしたが、参加することに意義がある！よく頑張りました。マエケンお疲れ様。まだ、メジャーに行かないでね。

